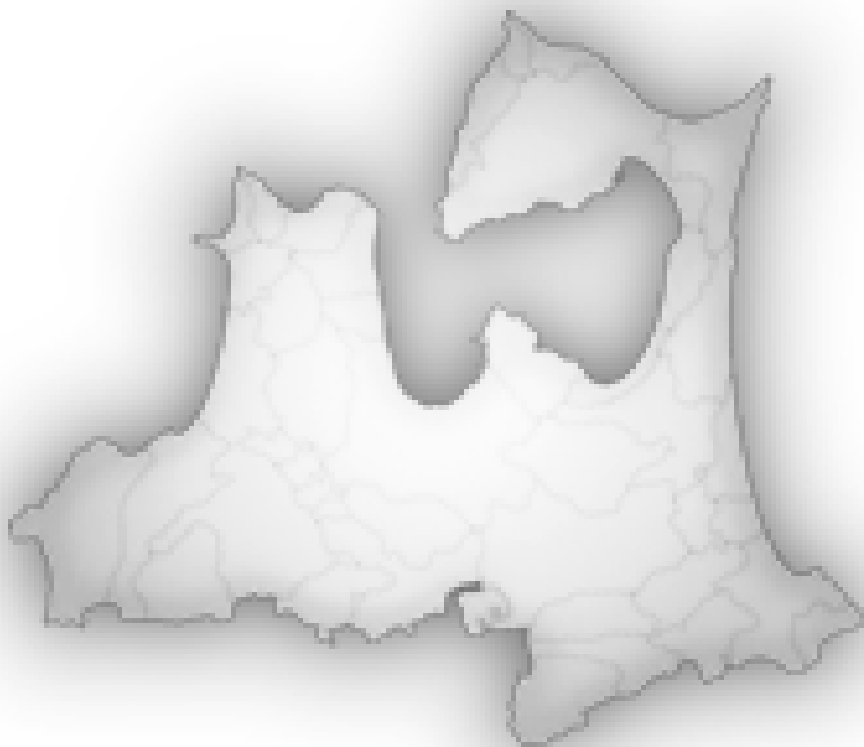


基礎・基本の定着と 活用力向上のために

平成28年度全国学力・学習状況調査
本県の結果と今後の対策
【小 学 校】



平成28年11月28日
青森県教育庁学校教育課

* 本報告書の活用にあたって *

本報告書は、本調査の結果を受けて、本県の学習指導上の課題を明らかにし、県内の各学校が今後とるべき対策の参考となる事柄を示すことを主なねらいとして作成したものである。

また、本報告書の活用にあたっては、各教科・科目の結果だけでなく、質問紙調査の結果についても、自校の結果と比較しながら、今後の指導の改善に役立てていただきたい。

なお、本調査の結果の概要や正答数の分布、すべての小問の正答率等については、文部科学省から配布された『平成28年度全国学力・学習状況調査【小学校】又は【中学校】調査結果』（CD-ROM版）を参照していただきたい。

さらに、国立教育政策研究所のホームページに、文部科学省の報告書や調査結果を踏まえた「授業アイデア例」がアップされているので、併せて活用していただきたい。

* 本報告書の用語や記号等について *

本報告書中の用語や記号等については、次のような意味で使用している。

「全国比」

: 「今年度の本県の平均正答（回答）率－今年度の全国の平均正答（回答）率」の式で求めた値。本県が全国を上回っていれば「+」、また、下回っていれば「-」で表示している。

「前年度県比」

: 「今年度の本県の回答率－平成27年度の本県の回答率」の式で求めた値。今年度が平成27年度を上回っていれば「+」、また、下回っていれば「-」で表示している。

「□」: 概況を示す。

「▼」: 課題を示す。

「◆」: 今後の方向性や対策・指導等を示す。

「**数字**」: 本県の正答率が、対比している値に対して5ポイント以上上下回っていることを示す。

**平成 28 年度全国学力・学習状況調査
本県の結果と今後の対策【小学校】**

目 次

I 国語A「主として知識に関する問題」	1
1 科目全体の結果	1
2 分類・区分別の結果と今後の対策	1
3 設問（小問）別の結果と今後の対策	2
4 国語Aに関する調査と質問紙調査との関連	4
II 国語B「主として活用に関する問題」	6
1 科目全体の結果	6
2 分類・区分別の結果と今後の対策	6
3 設問（小問）別の結果と今後の対策	7
4 国語Bに関する調査と質問紙調査との関連	9
＜平成27年度県学習状況調査を踏まえて（国語）＞	10
III 算数A「主として知識に関する問題」	11
1 科目全体の結果	11
2 分類・区分別の結果と今後の対策	11
3 設問（小問）別の結果と今後の対策	12
4 算数Aに関する調査と質問紙調査との関連	13
IV 算数B「主として活用に関する問題」	15
1 科目全体の結果	15
2 分類・区分別の結果と今後の対策	15
3 設問（小問）別の結果と今後の対策	16
4 算数Bに関する調査と質問紙調査との関連	18
＜平成27年度県学習状況調査を踏まえて（算数）＞	19
V 質問紙調査	21
1 児童質問紙調査の結果と今後の対策	21
2 学校質問紙調査の結果と今後の対策	25

**平成 28 年度 全国学力・学習状況調査
本 県 の 結 果 と 今 後 の 対 策
【 小 学 校 】**

I 国語 A「主として知識に関する問題」

1 科目全体の結果

国語 A 全体の平均正答率 (%)		
青森県	全国比	前年度全国比
77.4	+4.5	+5.1

- 国語 A 全体としては、本県は、全国を上回っている。
- ◆ 引き続き、基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着に努めるため、国語の授業づくりの視点を基にし、日常の授業で以下のことに留意したい。

授業づくりの視点

- 当該単元で育成したい国語の資質・能力を明確にする。
- 当該単元で育成したい国語の資質・能力の育成に適した言語活動を設定する。
- 児童自身が目的や必要性を意識して取り組める学習となるよう、学習課題を工夫する。
- 友達や教師、地域の人などとの交流を通じて、ものの見方や考え方を広げたり深めたりできるようにする。
- 多様な本や文章と出会い、ものの見方や考え方を広げたり深めたりできるようにする。
- 児童が学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れる。
- 主体的に学習に取り組む態度の評価を工夫する。

日常の国語の授業で大事にしたいこと

- 発達の段階に応じて、日常生活に必要とされる記録、説明、報告、紹介、感想、討論などの言語活動を行う場面を意図的に設定する。
- 話し合い活動等の言語活動の場においては、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりする活動をさせる。
- 体験的に理解させたり、繰り返し学習をさせたりするなど、発達の段階に応じて読み・書きなどの基礎的・基本的な能力を確実に身に付けさせる。
- 国語科の授業と学校図書館等を計画的に活用する読書活動を取り入れ、目的や意図に応じた効果的な読み方を継続的に指導する。

2 分類・区分別の結果と今後の対策

分 類	区 分	平均正答率 (%)		
		青森県	全国比	前年度全国比
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	81.0	+1.8	-0.9
	書くこと	73.2	+0.4	+0.4

評価の観点	読むこと	79.2	+0.7	+3.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.5	+6.4	+7.0
	話す・聞く能力	81.0	+1.8	-0.9
	書く能力	73.2	+0.4	+0.4
	読む能力	79.2	+0.7	+3.8
	言語についての知識・理解・技能	77.5	+6.4	+7.0

- 学習指導要領の領域別では、「話すこと・聞くこと」・「書くこと」・「読むこと」では、全国と同程度であり、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、上回っている。
- 評価の観点別では、「話す・聞く能力」・「書く能力」・「読む能力」では、全国と同程度であり、「言語についての知識・理解・技能」では、全国を上回っている。
- ▼ 引き続き、基礎的・基本的な知識や技能を、児童に確実に定着させるよう、指導をしたい。
- ▼ 学習指導要領の領域別では「書くこと」・「読むこと」、評価の観点別では「書く能力」・「読む能力」を、今後、さらに伸ばす必要がある。
- ◆ 「読む能力」を伸ばすには、例えば次のような指導を行う。

「読む能力」を伸ばすために

- 目的に応じて、比べ読み、速読、摘読、多読等の多様な読みをさせる。
- 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の児童が、自分の考えを広げたり深めたりするようにする。
- 本や文章を読んで、感想や紹介、推薦等の文章を書かせる。
- 登場人物や作品の構造、表現・叙述、視点などの観点について、自他の読み方の工夫などについて交流させる。

- ◆ 「書く能力」を伸ばすには、例えば次のような指導を行う。

「書く能力」を伸ばすための具体的指導

- 教師が、どのように書けばよいかという「具体的なモデル例」を示し、そこで、文末表現や段落構成、接続語、箇条書き、ナンバリング等の指導を丁寧に行い、児童が実際に書く時に活用できる具体的なイメージをもたせる。
- 目的や意図を明確にし、どのような観点で取材し、どのような構成や文体にして書くのかを具体的に指導する。また、その際、題名や前書き、目次、後書き、奥付などを付け、実際の本や新聞、雑誌、パンフレットなどに合わせて書くようにさせる。
- 自分の課題について調べたり、グループで共同で調べたりする活動をさせる中で、推敲の機会を多くし、読み手の立場で文章を読むことにより表現を工夫させる。
- 他教科等の時間に、目的をもって、記録文、観察文、レポート、新聞等を書く活動をさせる。

3 設問（小問）別の結果と今後の対策

（1）全国平均との比較（全国平均正答率よりも概ね1ポイント以上低い問題）

問題番号	問題の概要	平均正答率（％）	
		青森県	全国比
3	ルール説明の表現について助言した内容として適切なものを選択する。	66.0	-1.4

①概況及び課題

- 小問3は、国語Aの全15問中、平均正答率が唯一低かった問題である。
- ▼ 自分の書いた文章を相手が読んで理解しやすいかどうかを確かめ、よりよいものを書く直すことの大切さを指導することが必要である。
- ▼ 読み手の立場から文章を客観的に評価し、どのように書き換えればよいのかを具体的に助言できるようにする指導が必要である。

②今後の対策・指導

- ◆ 表現をよりよくするためには、書いたものを読み合い、助言し合う指導をする。その際、次のような視点をもって助言することができるように指導する。具体的な助言に視点をもつことで、自分の考えを深めたり表現の参考にしたりするなど、読み手の立場から自分の文章を評価することができるように指導する。

目的や意図に応じて、表現をよりよくするための助言を身に付けさせるために

〈助言の視点（例）〉

- ・ 書き手の考えが明確か。
- ・ 段落相互の関係や順序などが明確か。
- ・ 表現の曖昧さはないか。
- ・ 読み手が理解しやすい表現か。

（『平成28年度全国学力・状況調査の結果を踏まえた授業アイディア例【小学校国語】P3参照）

（2）正答率の低い問題（正答率が概ね65%以下の小問。うち、上記（1）にも該当する小問については、ここでは省略する。）

問題番号	問題の概要	平均正答率（%）	
		青森県	全国比
6	登場人物の人物像について、複数の叙述を基にして捉える。	65.1	+1.2
8一	平仮名で表記されたものをローマ字で書く。	58.6	+5.4
8二		51.0	+9.2
8三	ローマ字で表記されたものを正しく読む。	59.9	+9.2

①概況及び課題

- 各小問ともに、全国と同程度及び上回っているものの、約5割～6割にとどまっている。
- ▼ 小問8一、二、三は、正答率が5割であった。ローマ字を読む、書くことについては、第3学年の指導事項として扱っているが、当該学年での指導にとどまらず、他教科等でコンピュータ等を使った学習と関連付けるなどして、繰り返し読んだり書いたりする機会を増やす必要がある。
- ▼ 小問6については、物語を読み人物像を捉えるためには、場面の移り変わりに注意しながら複数の叙述を関連付けることが必要である。

②今後の対策・指導

- ◆ 物語を読む際は、登場人物の行動や会話など、複数の叙述を基にしながら、それぞれの登場人物の特徴や性格を押さえ、人物像を捉えることができるよう指導する。

登場人物の性格や気持ちの変化などを複数の叙述を基に捉えさせるために

- 物語全体を通して人物像が分かる行動描写や会話などに印を付けたり、線を引いたりし、それら複数の叙述を関連付けながら表に整理する。
- 各場面の様子に気を付けながら、場面と場面を関連付け、登場人物の特徴や性格が分かる叙述を押さえていくことで、登場人物の人物像を多面的に捉える。
- シリーズ刊行されている作品には、登場人物や状況設定など、共通した特徴をもつものが多い。シリーズ作品を重ねて読んでいくことで、特徴に気付かせることができる。
- 低学年の段階から、登場人物の行動を中心にし、根拠となる叙述を明確にしながら想像を広げて読むことができるよう指導する。
- 各自が捉えた人物像について、グループ等で交流することで、物語全体に広がっている複数の叙述を関連付けることができ、人物像がより明確になることに気付かせる。

(『平成28年度全国学力・状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例【小学校国語】P 4 参照)

4 国語Aに関する調査と質問紙調査との相関

(1) 児童質問紙調査との相関

- ☐ 質問番号(48)「5年生までに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか」

〈本県の状況〉

選択肢		平均正答率(%)	差	全国(国公立)
1	「当てはまる」	80.7	14.5ポイント	77.3
2	「どちらかといえば、当てはまる」	75.4		19.5ポイント
3	「どちらかといえば、当てはまらない」	69.6		
4	「当てはまらない」	66.2		57.8

- ◆ 発表する機会があったとする児童の平均正答率は8割を超えていることから、国語の基礎的な問題についての知識・理解の定着につながるよう、主体的に授業に参加する機会の充実を図る。

- ☐ 質問番号(70)「今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか」

〈本県の状況〉

選択肢		平均正答率(%)	差	全国(国公立)
1	「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」	80.8	27.8ポイント	77.5
2	「書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあった」	65.2		30.0ポイント
3	「書く問題は全く解答しなかった」	53.0		47.5

- ◆ 文章を書く問題において、最後まで諦めずに書こうとする指導の工夫を図る。

(2) 学校質問紙調査との相関

- 質問番号(21)「調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか」

〈本県の状況〉

選択肢		平均正答率(%)	差	全国(国公立)
1	「そのとおりだと思う」	80.4	17.4ポイント	76.8
2	「どちらかといえば、そう思う」	78.5		12.5ポイント
3	「どちらかといえば、そう思わない」	75.1		
4	「そう思わない」	63.0		64.3

- ◆ 自らの考えを工夫して発表するような指導を行っている学校は、そうではない学校より正答率が高い。また、その差は、全国よりも開いている。発言の機会を多くすることに加え、発表する際には、資料や文章、組立て等を工夫して行うよう指導する。

Ⅱ 国語B「主として活用に関する問題」

1 科目全体の結果

国語B全体の平均正答率（％）		
青森県	全国比	前年度全国比
60.2	+2.4	+4.4

□ 国語B全体として、本県は、全国を上回っている。

◆ 基礎的・基本的な知識や技能を活用する力の更なる向上に努めるため、今後も、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の各領域において、次のような授業を行う。

知識や技能を活用して課題を追究する国語の能力を伸ばすために

- 問題解決的な学習過程で、授業を展開する。
- 授業の導入では、学習意欲を喚起する問題（課題）を設定する。
- 児童が自力（一人）で問題（課題）解決に取り組む時間を確保する。
- 児童同士が、互いの考えを発表し合う時間を確保する。
- 児童が、自分の考えや学習のまとめを自力で書くように指導する。
- 単元の中に計画的に言語活動を位置付ける。

2 分類・区分別の結果と今後の対策

分類	区分	平均正答率（％）		
		青森県	全国比	前年度全国比
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	53.8	+2.7	
	書くこと	56.0	+2.6	+4.7
	読むこと	73.0	+3.7	+5.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	59.3	+4.6	+6.0
	話す・聞く能力	53.8	+2.7	
	書く能力	56.0	+2.6	+4.7
	読む能力	73.0	+3.7	+5.3
	言語についての知識・理解・技能			

□ 学習指導要領の領域別では、「話すこと・聞くこと」・「書くこと」・「読むこと」において、全国をやや上回っている。

□ 評価の観点別では、「話す・聞く能力」・「書く能力」・「読む能力」において、全国をやや上回っている。

▼ 領域別では「話すこと・聞くこと」、観点別では「話す・聞く能力」の平均正答率が他の領域、観点と比較すると低いことから、今後、これを伸ばす必要がある。

◆ 「話す・聞く能力」を伸ばすためには、目的や意図に応じて話合いの機会を設け、各教科との関連を図りながら、具体的に指導する。その中で、話し手の発言をよく聞き、中心を捉え、分類・整理することなどを指導していくよう、以下のような指導を行う。

「話す・聞く能力」を伸ばすために～話し合うことを通しての指導事例～

- 学校生活の中で、計画的に話合いの機会を設け、話し合うことに慣れさせる。
 - ・朝や帰りの会、学級活動の話合い、各教科のグループ活動、自主的な話合い等。
 - ・初期の段階では、必要に応じて話型を活用するなど、具体的に指導する。
- 相手や場に応じ、適切な内容や言葉遣いなどで話すようにさせる。
- 発言内容をよく聞き、考えの中心となることを捉えさせる。
 - ・話の要点を聞き取り、大事なことを短い言葉でメモをとる習慣を身に付けさせる。
 - ・発言内容を自分の言葉に置き換えて理解させるなどの工夫をする。
 - ・発言内容が分からない時には、聞き返しや質問をして確認するようにさせる。
- 複数の発言内容を聞き分け、考えの立場や見解などを分類・整理させ、話合いの観点を明らかにさせていく。
 - ・キーワード、共通点、相違点等に注目させる。

(『平成26年度全国学力・学習状況調査報告書【小学校国語】』P51、『平成26年度全国学力・状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例【小学校国語】』P9～10参照)

3 設問（小問）別の結果と今後の対策

(1) 全国平均との比較（全国の前正答率よりも概ね1ポイント以上低い問題）

問題番号	問題の概要	平均正答率（％）	
		青森県	全国比
2一	グラフを基に、分かったことを的確に書く。	42.4	－1.0
2三	活動報告文において、課題を取り上げた効果を捉える。	56.3	－2.0

①概況及び課題

- 2一は、全国と比較すると同程度、2三はやや下回っている。2二（2）、3三は上回っている。他は、同程度またはやや上回っている。
- ▼ 2一については、グラフを基に、読み取ったことを関係付けながら考察し、分かったことを適切な言葉で説明することができるよう指導していく必要がある。
- ▼ 2三については、報告文が書かれている目的を踏まえ、課題を取り上げた効果について捉えさせる必要がある。

②今後の対策・指導

- ◆ 図表やグラフなどを読み、分かったことを的確に書くには、情報を正しく読み取り、必要な情報について、適切な言葉を用いて記述することが重要である。そのためには、社会や算数等で学習した図表やグラフの読み方を確認し、読み取ったことを的確に表現することができるよう指導していく。
- ◆ 図表やグラフを用いて自分の考えを書く際には、図表やグラフなどから目的に応じて必要な情報を取り出し、比較したり関連付けたりしながら自分の考えを明確にする指導を行う。

- ◆ 活動報告文では、報告する相手や目的に応じて、文章全体の内容や構成を工夫することが必要である。そのためには、目的や意図を踏まえ、自分の考え及び相手の理解が明確になるように、自分が伝えたい内容と構成の効果を考えることができるよう指導する。

「書く能力」を伸ばすために～図表やグラフを基にし報告文を書く活動を通して～

○図表やグラフから分かったことを書く。

- ・一つのグラフを取り上げて全体的な特徴や変化の特徴を捉える学習や複数の図表やグラフを比較したり関連付けたりする学習などを通して、図表やグラフの読み方を理解できるよう指導する。
- ・読み取った情報を相手に分かりやすく伝えるための言葉を選択する。

○目的や意図に応じ、図表やグラフを用いて、自分の考えを書く。

- ・観察、実験、調査等を行って得られた結果などの事実を図表やグラフで示し、自分がどのように読み取って分析したのか、どのような考えをもったのかを具体的に記述するような学習が重要である。
- ・図表やグラフの中にあるどの数値や言葉を使って書くことが効果的であるのかを検討する。また、用いた図表やグラフとその分析内容が、自分の考えを明確に伝えるための根拠となっているのかを確かめることも大切である。

○目的や意図に応じ、構成の効果を考えて書く。

- ・活動報告文の構成として「活動の目的」、「活動の内容」、「活動の成果」、「活動の課題」、「活動を振り返って考えたこと」などが挙げられる。
- ・報告する相手や目的に応じて、記述内容や用いる資料を考えながら文章全体の構成を決めていくことが必要である。その際、自分の考え及び相手の理解が明確となるように文章を構成することが大切である。

(『言語活動事例集【小学校版】』(文部科学省) P 4 1～4 2、P 6 1～6 2 参照)

- (2) **正答率の低い問題** (正答率が概ね60%以下の小問。うち、上記(1)にも該当する小問については、ここでは省略する。)

問題番号	問 題 の 概 要	平均正答率 (%)	
		青森県	全国との差
1 一	目的に応じて質問したいことを整理する。	55.1	+3.3
1 二	質問の意図を捉える。	51.8	+0.7
1 三	話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する。	54.7	+4.3

①**概況及び課題**

- 上記3問は、全国平均正答率が50%台と低い問題である。
- ▼ 1一では、インタビューメモの内容を捉えた上で、インタビューメモを作成した際に工夫した点を捉える必要がある。
- ▼ 1二では、店長の発言を受け、山下さんがどのような意図で質問をしているのかを捉える必要がある。
- ▼ 1三では、インタビューメモに書かれた内容と店長の発言とを関連付けながら山下さんがどのような質問をしたのかを考えて書くことが必要とされている。

②**今後の対策・指導**

- ◆ インタビューを行う場合、事前にインタビューメモを作成するなど、調査等の目的に応じて質問したいことを整理しておくことが大切である。質問を整理することで、何を

聞きたいのかがはっきりし、全体を見通すことができるため、知りたいことを落とさないようにしながら相手の話を聞くよう指導する。

- ◆ インタビューはメモを見ながら、想定したとおりに質問を進めていくだけでよいわけではない。インタビューメモを基にしながらも、実際の話の展開に応じて質問できるようにする。

話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する力を付けるには

○質問したいことを整理し、インタビューメモを作成する。

- ・調査の目的をはっきりさせ、分かっていることを基にして、質問の具体的な内容や順序を考える。
- ・質問に対する答えを予想し、相手の答えに応じた質問ができるようにする。
- ・質問事項をチャートにし、質問を構造化して、軽重を付けたり、相手の話に応じて選べるようにしておく。
- ・付箋を活用し、必要に応じて、質問の順序を変えられるようにしたり、取捨選択できるようにしたりする。

○相手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する。

- ・インタビューも目的に応じて、相手の意図、自分の予想との違い、自分の考えとの共通点や相違点などを観点として聞く。
- ・相手の話に同意した上で質問したり、相手の話を言い換えてから質問したり、話題を変えて質問したりするなどの質問の仕方を取り上げて指導する。

(『平成26年度全国学力・学習状況調査報告書【小学校国語】』P53)

4 国語Bに関する調査と質問紙調査との関連

(1) 児童質問紙調査との関連

- 質問番号(81)「今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか」

〈本県の状況〉

選択肢		平均正答率(%)	差	全国(国公立)
1	「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」	64.1	29.8ポイント	63.2
2	「書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあつた」	49.1		33.9ポイント
3	「書く問題は全く解答しなかった」	34.3		29.3

- ◆ 国語科で培った言語能力が、他教科の言語活動等に効果的に働き、国語科のみならず他教科における記述式の正答率が高まるため、発達段階に応じた段階的な指導を行う。

(2) 学校質問紙調査との関連

- 質問番号(19)「調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」

＜本県の状況＞

選択肢		平均正答率(%)	差	全国(国公立)
1	「そのとおりだと思う」	66.4	← 23.3ポイント ←	61.2
2	「どちらかといえば、そう思う」	60.0		↑ 11.1ポイント ↓
3	「どちらかといえば、そう思わない」	56.9		
4	「そう思わない」	43.1		50.1

- ◆ 学級やグループでの話し合いなどの活動を行っている学校の正答率が高いことから、授業や学校行事等を通して、自分の考えを深めたり、広げたりする機会を多く設ける。

＜平成27年度県学習状況調査を踏まえて（国語）＞

【話すこと・聞くこと】

H27学習状況調査実施報告書において、「話し合いの目的や意図を捉えながら、進行に沿って話し合い、話す内容や聞いた内容を整理する力」の向上が挙げられた。今後の指導として、司会の役割や提案の仕方を理解した上で、出された意見について共通点や相違点を整理していく話し方、結果を先に話しその後に理由を述べる話し合いの報告の仕方など、分かりやすく伝える話し方について指導する事が大切であるとした。

H28年度の全国学力・学習状況調査では、前年度の全国の前年度と比較し、－0.9ポイントと唯一下回った領域であったが、H28年度は、＋1.8ポイントと同程度となった。今後も引き続き「話すこと・聞くこと」において、話し方・聞き方の具体的なポイント等について、段階的、系統的な指導が必要である。

【書くこと】

H27学習状況調査実施報告書では、文章の書き換えや推敲、必要なことを正しく伝える力の向上が挙げられ、書いたものを比べることや交流活動を取り入れることが大切であるとした。

H28年度の全国学力・学習状況調査のA及びB問題の書くことの領域の8問中4問が、全国平均正答率を下回っている。今後は、書くことにおいて、相手意識や目的意識を明確にし、児童に具体的な手立てを示し繰り返し指導していくことが必要である。また、他教科等とも関連させながら指導していくことが効果的である。

【読むこと】

H27学習状況調査実施報告書では、説明的文章において目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり、要約したりする力の向上が挙げられるとし、今後の指導では児童自身の目的意識や必要感を喚起する言語活動の位置付けや教材文から情報を取り出し、再構成するなどして自分の考えをまとめさせることが大切であるとした。また、文学的文章においては、登場人物の行動や会話に即して性格を押さえ、人物同士の関係、物語上の役割を考えながら、それらの人物像を中核に読む指導の充実が挙げられ、今後の指導では、登場人物に視点を当てた言語活動の設定、行動や会話に着目して想像を広げる学習で、人物像を多面的に捉える指導が大切であるとした。

H28年度の全国学力・学習状況調査では、全国平均正答率と同程度ではあるものの全て上回る結果となった。今後も登場人物の心情や性格、考え方などを多面的に捉えるために、学習のねらいにあった学習形態の工夫や、指導計画の工夫により、読むことについて着実に定着していくものと思われる。

Ⅲ 算数A「主として知識に関する問題」

1 科目全体の結果

算数A全体の平均正答率（％）		
青森県	全国比	前年度全国比
80.4	+2.8	+3.3

- ☐ 算数A全体としては、本県は、全国をやや上回っている。
- ☐ 本県と全国との差は、前年度と大きな変化はない。
- ☐ 本県と最上位県の平均正答率との差は、－2.0ポイントである。
- ◆ 引き続き、基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着に努める。

基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着のために

- 身に付けた知識や技能を使って解決する場面を繰り返し設定する。
- 解決の過程や結果を振り返る場面を設定する。

2 分類・区分別の結果と今後の対策

分 類	区 分	平均正答率（％）		
		青森県	全国比	前年度全国比
学習指導要領の領域	数と計算	83.2	+2.7	+2.9
	量と測定	79.8	+2.8	+5.1
	図形	84.5	+5.7	+2.3
	数量関係	70.0	+1.5	+4.7
評価の観点	数量や図形についての技能	85.2	+2.7	+3.8
	数量や図形についての知識・理解	78.3	+2.9	+3.0

- ☐ 小問16問中9問において、正答率が8割を越えている。
- ☐ 学習指導要領の領域別では、本県は「数量関係」では全国と同程度、「数と計算」及び「量と測定」は全国をやや上回っており、「図形」は全国を上回っている。
- ☐ 前年度との比較では、学習指導要領の領域別で「図形」が前年度をやや上回っている。
- ☐ 評価の観点別では、2観点すべてにおいて、本県は全国をやや上回っている。
- ☐ 計算や測定の処理ができていない児童のうち、相当数の児童は見積や見当付けにおいても計算の結果や角の大きさを適切に捉えることができていると考えられる。
- ▼ 学習指導要領の領域別では、「数量関係」の平均正答率が70％と最も低いことから、その改善を図りたい。
- ◆ 「数量関係」領域の一層の定着を図るために、次のような指導を行う。

「数量関係」領域の一層の定着を図る指導

- 式に表す活動に加え、式を読む活動（式からそれに対応する具体的な場面を読む、式の表す事柄や関係を言葉の式に一般化するなど）もねらいにあわせバランスよく指導する。
- 自分の考えを式を使って発表するだけでなく、友達が考えた式から問題解決の思考過程を読み取り、読み取ったことを交流し合う言語活動を設定する。

- 「数と計算」「量と測定」の領域の授業に、場面を簡単な数に置き換えて考えたり、簡単な図や表などに数量の関係を表したりするなど、場面を的確に読み取る場を設定する。その際、単に問題場面を図に表現するなどの手続きを覚えさせるのではなく、問題場面がどのような関係を表しているのかを確認し、そのイメージを図などを用いて表現させることに留意する。
- 「図形」の領域の授業に、図形の要素（辺の長さ、頂点の数など）などが決まれば、ほかの要素や事柄が決まるような問題を設定し、互いに対応付けて関係をみていく教材を意識的に扱い、事柄の変化の特徴を調べる場を設定する。

3 設問（小問）別の結果と今後の対策

（１）全国平均との比較（全国の前平均正答率よりも概ね1ポイント以上低い問題）

- 本県はすべての小問で全国の前平均正答率を、0.1～7.7ポイント上回った。

（２）正答率の低い問題（正答率が概ね65%以下の小問）

問題番号	問題の概要	平均正答率（%）	
		青森県	全国比
9（2）	定員と乗っている人数の割合を、百分率を用いた図に表すとき、当てはまる数値の組合せを書く。	51.3	+0.4

①概況及び課題

- 小問9（2）は、乗っている人数が定員より20%分多い場面で、基準量と比較量を適切に捉え、20%分多いことを図に表すことができるかどうかをみる問題であり、唯一正答率が65%を下回った問題である。
- 学習指導要領の領域別では「数量関係」領域、評価の観点別では「数量や図形についての知識・理解」に関する問題である。
- ▼ 全国的にも正答率の低い問題である。百分率で表された場面で、基準量と比較量を正しく捉える力が必要である。

②今後の対策・指導

- ◆ 百分率で表された場面で、基準量と比較量の関係を正しく捉えることができるようにするために、次のような指導を行う。

基準量と比較量、割合の関係を正しく捉える力を伸ばすための指導

- 日常生活と結び付け、割合を百分率や小数で表す場面を設定する。
- 基準量、比較量、割合の関係を数直線で表す等、数量の関係を表現する活動を取り入れる。

- ◆ 本設問の具体的な指導として、次の2つが考えられる。
 - ①定員が基準量であり、基準量は100%となることを図などを使いながら捉える場面を設ける。その上で、乗っている人数は定員よりも、定員の20%分多いことから、乗っている人数の割合は120%であると捉えることができるようにする。
 - ②定員の人数を求める場面を設ける。その際、100%を1、120%を1.2に表現し

直し、基準量の1.2倍が比較量であることを $\square \times 1.2 = 60$ という式に表現した後、 $60 \div 1.2$ という除法の式で定員の人数を求めることができるようにする。
 (『平成28年度全国学力・学習状況調査解説資料【小学校 算数】』P45の「学習指導に当たって」参照)

4 算数Aに関する調査と質問紙調査との相関

(1) 児童質問紙との相関

☐ 質問番号(22)「家で、学校の宿題をしていますか」

〈本県の状況〉

選択肢		平均正答率(%)	差	全国(国公立)
1	「 して い る 」	81.8	20.0ポイント	79.4
2	「どちらかといえば、している」	71.1		24.9ポイント
3	「あまりしていない」	62.5		
4	「 全 く し て い な い 」	61.8		54.5

◆ 学校の宿題を家でしている児童と全くしていない児童の算数Aの正答率の差は、20.0ポイントとその差が大きい。基礎的・基本的な知識・技能の定着のためには、学校と家庭が連携して家庭学習習慣を形成していくことが必要である。

☐ 質問番号(53)「5年生までに受けた授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか」

〈本県の状況〉

選択肢		平均正答率(%)	差	全国(国公立)
1	「 当 て は ま る 」	83.4	16.4ポイント	81.4
2	「どちらかといえば、当てはまる」	78.4		19.0ポイント
3	「どちらかといえば、当てはまらない」	72.8		
4	「 当 て は ま ら な い 」	67.0		62.4

◆ 授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思うかについて「当てはまる」と回答した児童ほど算数Aの正答率が高い。児童に、課題意識や解決の見通しを持たせたり、授業のゴールをイメージさせたりするために、本時の目標(めあて・ねらい)を板書するなどして示すことはもちろん、児童自身が目標(めあて・ねらい)を意識できるような授業づくりに努める。

☐ 質問番号(79)「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」

〈本県の状況〉

選択肢		平均正答率(%)	差	全国(国公立)
1	「 当 て は ま る 」	85.4	23.1ポイント	83.5
2	「どちらかといえば、当てはまる」	78.6		22.9ポイント
3	「どちらかといえば、当てはまらない」	71.1		
4	「 当 て は ま ら な い 」	62.3		60.6

◆ 公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていると回答した児童ほど正答

率が高く、「当てはまる」と「当てはまらない」との差は23.1ポイントであった。

この質問と算数A、算数Bとの関係を相関係数（この表にはない）で比較すると、算数Aの方が算数Bよりも相関が強い。

このことから、公式やきまりの定着を図るためには、丸暗記させて多くの練習問題を解かせるだけではなく、そのわけを併せて理解させる授業づくりが有効であると考えられる。

（２）学校質問紙との相関

- ☐ 質問番号（１４）「調査対象学年の児童は、熱意をもって勉強していると思いますか」

＜本県の状況＞

選択肢		平均正答率（％）	差	全国（国公立）
1	「そのとおりだと思う」	83.3	12.6ポイント	80.2
2	「どちらかといえば、そう思う」	79.2		14.9ポイント
3	「どちらかといえば、そう思わない」	78.5		
4	「そう思わない」	70.7		65.3

- ◆ 熱意をもって勉強していると思う学校ほど、算数Aの正答率が高いことから、児童の学習意欲を高め、やる気を引き出す授業づくりが望まれる。そのためには、児童が主体的に学習に取り組めるような教師の手だてが必要である。

- ☐ 質問番号（１５）「調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか」

＜本県の状況＞

選択肢		平均正答率（％）	差	全国（国公立）
1	「そのとおりだと思う」	82.1	15.0ポイント	79.5
2	「どちらかといえば、そう思う」	79.1		9.9ポイント
3	「どちらかといえば、そう思わない」	78.1		
4	「そう思わない」	67.1		69.6

- ◆ 私語が少なく、落ち着いていると思う学校ほど、算数Aの正答率が高いことから、学習規律の定着は児童の学力を高める基盤であることが窺える。学校全体として、小学校の6年間を見通し、学年相応の学習規律を育む指導に努める必要がある。

- ☐ 質問番号（１８）「調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていると思いますか」

＜本県の状況＞

選択肢		平均正答率（％）	差	全国（国公立）
1	「そのとおりだと思う」	82.8	14.1ポイント	80.1
2	「どちらかといえば、そう思う」	79.8		9.7ポイント
3	「どちらかといえば、そう思わない」	76.5		
4	「そう思わない」	68.7		70.4

- ◆ 話し合い活動で相手の考えを最後まで聞くことができていると思う学校ほど、算数Aの正答率が高いことから、算数に限らず、話し合い活動を授業に取り入れるとともに、よい話し手に加え、よい聞き手を育てる指導に努める必要がある。

Ⅳ 算数B「主として活用に関する問題」

1 科目全体の結果

算数B全体の平均正答率（％）		
青森県	全国比	前年度全国比
47.9	+0.7	+2.4

- 算数B全体としては、本県は、全国と同程度である。
- 本県と全国との平均正答率の差は、前年度に比べ小さくなった。
- 本県と最上位県の平均正答率との差は、－5.6ポイントである。
- ◆ 基礎的・基本的な知識や技能を活用する力のさらなる向上に努める。

基礎的・基本的な知識や技能を活用する力を伸ばすために

- 授業の導入段階で、本時の課題（問題）解決の見通しを児童にもたせ（解決に必要な考え方や知識・技能の関連を確かめて）、活用する意義を実感させてから、本時の課題（問題）に取り組ませる。
- 毎日の授業や単元のまとめの適用題及び家庭学習で取り組む課題プリントの中に、基礎的・基本的な知識や技能を活用する発展的な問題を意図的に入れ、基礎的な内容を基にして、児童が考え、表現する力を育成する機会を増やす。

2 分類・区分別の結果と今後の対策

分類	区分	平均正答率（％）		
		青森県	全国比	前年度全国比
学習指導要領の領域	数と計算	44.7	+0.3	+2.0
	量と測定	44.5	+0.8	+1.2
	図形	36.5	+0.2	+2.1
	数量関係	43.0	+0.1	+2.6
評価の観点	数学的な考え方	42.1	+1.2	+2.2
	数量や図形についての技能	52.2	－1.1	+4.1
	数量や図形についての知識・理解	70.0	+0.5	+1.6

- 学習指導要領の領域別では、本県は4領域すべてにおいて全国と同程度である。
- 評価の観点別では、3観点すべてにおいて全国と同程度である。
- ▼ 全国比の前年度との比較では、学習指導要領の領域別では0.4～2.5ポイント、評価の観点別では、1.0～5.2ポイント下回った。「数量や図形についての技能」の差が最も大きい。
- ▼ 「数学的な考え方」は正答率としては、3つの観点の中で最も低い。
- ◆ 「数学的な考え方」を身に付けさせるために、次のような取組をねらいに即して行うようにする。

「数学的な見方や考え方」を身に付けさせるために

- 与えられた条件や根拠となる事実を明らかにして説明する場を設定した後、解決したことを振り返り、吟味・確認する活動を取り入れる。

○友達の考え方のよさやつながりを考える話し合い活動を設定した後、その考え方を活用した発展的な問題を解く活動に取り組ませ、よりよく問題解決できる力を育成する。

3 設問（小問）別の結果と今後の対策

（１）全国平均との比較（全国平均正答率よりも概ね1ポイント以上低い問題）

問題番号	問題の概要	平均正答率（％）	
		青森県	全国比
2（2）	40mのハードル走の目標のタイムを求める式に8.1と4を当てはめて、まなみさんの目標のタイムを求める式と答えを書く。	47.1	-3.4

①概況及び課題

- 上記の問題は、全国的にも通過率の低い問題であったが、本県は全国平均よりもさらに3ポイント以上低い。
- 本問題について、本県の小学生の無答率は2.5％で全国平均より1.7ポイント低かったことから、問題に取り組む粘り強さに大きな差はないと考えられる。
- ▼ 示された式に数値を当てはめて、正しく計算することが求められる問題であるが、式に数値を当てはめることができない、または、適切に数値を当てはめることはできるが、正しく計算できていない児童が半数以上いるものと推定される。
- ▼ 問題解決のために、問題場面と式を関連付けた上で、計算の順序に基づいて正しく計算できるようにする必要がある。

②今後の対策・指導

- ◆ 四則の混合した計算を用いることが必要な問題場面において、式と関連付けた指導を行う。
 - ◆ 日頃から計算で求めた結果について、実際の場面に当てはめてその結果が適切かどうか振り返って確かめる習慣を身に付けることができるよう指導する。
 - ◆ 計算の順序についてのきまりは、整数の範囲で確実にできるようにし、その上で、小数や分数を含む計算の場合にも計算の順序に基づいて正しく計算することができるように、継続して指導する。
- （『平成28年度全国学力・学習状況調査報告書【小学校算数】』P75の「学習指導に当たって」参照）

（２）正答率の低い問題（正答率が概ね55％以下の小問。うち、上記（１）にも該当する小問については、ここでは省略する。）

問題番号	問題の概要	平均正答率（％）	
		青森県	全国比
1（2）	正方形の縦の長さを2cm短くし、横の長さを2cm長くすると面積が4cm ² 小さくなることの説明を書く。	49.6	+4.4
2（3）	目標のタイムを求める式の中の0.4や0.3が表す意味を書く。	18.0	+2.4

3 (2)	縦 3 9 cm、横 5 4 cm の長方形の厚紙から、1 辺 9 cm の正方形を 2 4 個切り取ることができるわけを書く。	4 0 . 3	+ 1 . 9
4 (1)	学校ごとの 1 人当たりの本の貸出冊数を求めるために、学校ごとの貸出冊数の合計のほかに調べる必要のある事柄を選ぶ。	4 8 . 2	- 0 . 1
4 (3)	A 小学校と B 小学校の図書委員が表したグラフを見比べて読みとった事柄として正しくない事柄について、正しくないわけを書く。	2 5 . 1	+ 0 . 2
5 (1)	示された形をつくることができることを説明する式の意味を、数や演算の表す内容に着目して書く。	7 . 3	+ 0 . 4
5 (2)	示された四角形を並べてできる図形を選ぶ。	2 4 . 8	- 0 . 6

①概況及び課題

- 上記 7 問のうち、5 問は全国をやや上回るか同程度であり、また、無答率（この表にはない）は、全国の 5 0 ～ 7 0 % 程度であったことから、本県の児童は、問題に対して粘り強く取り組んでいることが窺える。
- 上記 7 問は、評価の観点がすべて「数学的な考え方」の問題である。
- 上記 7 問は、指導要領の領域では、「数と計算」が 3 問（うち 1 問は、「量と測定」、「図形」、「数量関係」を含む）、「量と測定」が 4 問（うち 1 問は、「数と計算」、「図形」、「数量関係」を含む、もう 1 問は「図形」を含む）、「図形」が 2 問（うち 1 問は、「数と計算」、「量と測定」、「数量関係」を含む、もう 1 問は「量と測定」を含む）であった。
- ▼ 日常生活と関連付けて、数量や図形の意味を実感的に理解させるために、算数的活動の充実を図る必要がある。

②今後の対策・指導

- ◆ 数学的に表現する力を伸ばすためには、次のような指導を行う。

数学的に表現する力を伸ばすための指導

- 日常生活の事象と関連付けて考える活動や、算数で学んだことを使って日常生活の事象を解決する活動の充実を図る。
- 説明として必要な根拠を満たしているか吟味する話し合いを行い、よりよい説明に高めて表現する指導の充実を図る。
- 問題を解決した後、学習したことを児童がさらに発展させて新たな問題を見つけたり、数値や形などの異同を確認しながら理由を考えたりする活動の充実を図る。

- ◆ 数学的な考え方をを用いて、合理的に判断し、能率的に処理する活動や、根拠となる事柄を過不足なく説明する指導の充実を図る。
- ◆ 言葉や数、式、図、表、グラフなどを使って、それぞれの表現を関連付けて考える活動を多く取り入れる。
- ▼ 小問 1 (2) については、論理の飛躍を防ぎ聞き手に正確に伝わるようにするため、考えを事象と関連付け、前提となる考えや理由などの根拠を明らかにして、論理的に考えたり説明したりする学習活動を展開する。（『平成 2 8 年度全国学力・学習状況調査報告書【小学校算数】』P 6 9 の「学習指導に当たって」及び『平成 2 8 年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例 小学校』P 9 ～ 1 0 参照）

- ▼ 小問２（３）については、日常生活の事象と式を関連付け、式の意味や数値の意味を解釈し、説明することができるようにするため、言葉の式を提示し、事象と式を関連付けながら解釈する場を設ける。（『平成２８年度全国学力・学習状況調査報告書【小学校算数】』Ｐ７７の「学習指導に当たって」参照）
- ▼ 小問３（２）については、説明を振り返らせ、筋道を立てて考えたことを過不足なく説明できるようにする学習活動を展開する。（『平成２８年度全国学力・学習状況調査報告書【小学校算数】』Ｐ７７の「学習指導に当たって」参照）
- ▼ 小問４（１）については、問題解決のために、必要な情報を判断することができるよう、解決したい問題を明確にして資料を集め、集めた資料を分類整理し、表に表したり、表から読み取ったりする学習活動を展開する。（『平成２８年度全国学力・学習状況調査報告書【小学校算数】』Ｐ８７の「学習指導に当たって」参照）
- ▼ 小問４（３）については、グラフを批判的に考察し、情報を正しく読み取ることができるようにするため、複数の折れ線グラフを提示し、比較する場面を取り上げて、変化の大きさや増え方の大きさの違いについて考察する学習活動を展開する。（『平成２８年度全国学力・学習状況調査報告書【小学校算数】』Ｐ９０の「学習指導に当たって」及び『平成２８年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイディア例 小学校』Ｐ１１～１２参照）
- ▼ 小問４（３）については、判断した根拠を明らかにした上で、説明することができるようにするため、根拠となる事柄が不足している説明を取り上げ、説明として何が不足しているのかについて話し合う学習活動を展開する。（『平成２８年度全国学力・学習状況調査報告書【小学校算数】』Ｐ７７の「学習指導に当たって」参照）
- ▼ 小問５（１）については、図形と式を関連付けて、式の意味を説明することができるようにするために、式が図形の何を示しているのか解釈し説明し合う学習活動や明らかになった式の意味について、児童同士で再度確認したり、ノートに記述して整理したりする学習活動を取り入れる。（『平成２８年度全国学力・学習状況調査報告書【小学校算数】』Ｐ９５の「学習指導に当たって」及び『平成２８年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイディア例 小学校』Ｐ１３～１４参照参照）
- ▼ 小問５（２）については、辺の長さや角の大きさなどに着目して見通しをもって図形を構成したり、構成できた根拠を説明したりすることができるようにするために、どのような形ができるかを予想し、実際に作って確かめる学習活動を展開する。（『平成２８年度全国学力・学習状況調査報告書【小学校算数】』Ｐ９６の「学習指導に当たって」参照）

４ 算数Ｂに関する調査と質問紙調査との相関

（１）児童質問紙との相関

- 質問番号（４７）「５年生までに受けた授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか」

＜本県の状況＞

選択肢		平均正答率（％）	差	全国（国公立）
1	「 当 て は ま る 」	52.3	← 17.2ポイント →	52.3
2	「どちらかといえば、当てはまる」	47.9		↑ 17.8ポイント ↓
3	「どちらかといえば、当てはまらない」	42.5		
4	「 当 て は ま ら な い 」	35.1		34.5

- ◆ 自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思う学校ほど、算数Bの正答率が高いことから、算数に限らず、児童が課題設定をし、主体的に課題解決に取り組む学習活動の充実を図る必要がある。

(2) 学校質問紙との関連

- 質問番号(21)「調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか」

＜本県の状況＞

選択肢		平均正答率(%)	差	全国(国公立)
1	「そのとおりだと思う」	51.3	19.7ポイント	51.2
2	「どちらかといえば、そう思う」	48.8		12.2ポイント
3	「どちらかといえば、そう思わない」	45.3		
4	「そう思わない」	31.6		39.0

- ◆ 考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表できていると思う学校ほど、算数Bの正答率が高いことから、算数に限らず、自分の考えをうまく伝えるために工夫した表現ができるよう言語活動の充実に必要な。

- 質問番号(44)「調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか」

＜本県の状況＞

選択肢		平均正答率(%)	差	全国(国公立)
1	「よく行った」	48.9	10.3ポイント	48.2
2	「どちらかといえば、行った」	46.7		7.2ポイント
3	「あまり行っていない」	47.0		
4	「全く行っていない」	38.6		41.0

- ◆ 話し合い活動で、考えを深めたり広げたりすることができていると思う学校ほど、算数Bの正答率が高いことから、算数に限らず話し合い活動を授業に取り入れ、自分の考えを伝えたり、他の意見を吟味し、広げたり深めたりする場面がある指導に必要な。

＜平成27年度県学習状況調査を踏まえて（算数）＞

【知識・理解】

H27学習状況調査実施報告書において、「図形」では、作図と図形の特徴を結び付けた理解について課題が見られた。今後の指導として、学習内容の理解を深めるためには、平行四辺形のかき方などの手順を理解させるだけでなく、身に付けた知識や技能を生かしてかき方の根拠を説明させる等などの学習活動を取り入れることが有効であることとした。また、学習の評価は「平行四辺形をかくことができたか（技能）」だけの評価ではなく、「身に付けた技能の裏付けとなる根拠をどのように表現しているのか（知識・理解）」など、意味の理解についても評価すること、その際、児童自身が今まで学習したことを活用できるように支援することが大切であるとした。

平成28年度の全国学力・学習状況調査では、全国の正答率と比較し、0.5ポイント上回り、ほぼ同程度であった。今後も「図形」の領域への指導に重点を置きながら指導する必要がある。

【数学的な見方・考え方】

H27学習状況調査実施報告書において、「量と測定」の領域において、与えられた面積が縦横の長さがどの程度の正方形や長方形になるのか筋道立てて考えることや面積の量感を豊かにする指導が大切であるとした。

また、「活用」に関する問題において、数量や図形などについての基礎的・基本的な知識や技能を活用して、課題を解決する力について課題が見られた。今後の指導として、既習事項を使って未習の事項について予想させたり、より考えやすいものに置き換えさせたりするなどの活動を取り入れて、課題解決に入る前に十分な見通しを持たせる指導が大切であるとした。

平成28年度の全国学力・学習状況調査では、全国の正答率と比較し、1.2ポイント上回り、ほぼ同程度であった。B問題で出題された「数学的な考え方」の9問中、7問を本冊子では取り上げたが、そのうち4問が「量と測定」の領域である。今後も「量と測定」領域へ重点を置きながら指導する必要がある。

V 質問紙調査

1 児童質問紙調査の結果と今後の対策

(1) 学習に対する関心・意欲・態度及び学習状況

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

（参考：児童質問紙7より）

- ・友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意と思っている児童の割合は、53.3%で半数程度である。

（参考：児童質問紙58より）

- ・学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思っている児童の割合は、54.4%で半数程度である。

②今後の対策・指導

- ◆ 授業を行うに当たっては、引き続き、次のようなことを心がけるようにする。

「自分の考えや意見を他の人に説明したり、文章を書いたりする力」を高めるために

- 児童の実態、学習の目標や内容に応じて、ペアやグループなど学習形態を工夫しながら考えや意見を発表し合う機会を意図的に設け、どの児童にも自分の考えを相手に話す体験をさせる。また、友達の意見を共感的に聞けるような話しやすい学級の雰囲気づくりにも心がけ、児童が自信を持って話すことができるようにする。
- 書く活動を授業の中で形式的に取り入れるのではなく、児童の気付き、驚き等を引き出す授業を展開するとともに、児童にとって必然性のある表現活動を設定し、意欲的に書いたり話したりできる活動に取り組めるようにする。

(2) 学習時間等

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

（単位：％）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
14学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしているか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間を含む） 【「1時間以上」の合計】	68.3	+5.8	-0.6
15土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしているか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間を含む） 【「1時間以上」の合計】	71.0	+14.0	-0.9
21家で、自分で計画を立てて勉強をしているか 【「している」「どちらかといえば、している」の合計】	67.8	+5.6	-1.7
23家で、学校の授業の予習をしているか 【「している」「どちらかといえば、している」の合計】	53.7	+10.4	-0.6

24家で、学校の授業の復習をしているか 【「している」「どちらかといえば、している」の合計】	79.7	+24.5	+0.3
25家で、予習・復習やテスト勉強などの自学自習 において、教科書を使いながら学習しているか 【「している」「どちらかといえば、している」の合計】	81.5	+16.9	(新規)

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- ☐ 普段、1日当たり1時間以上勉強している児童の割合は、全国を上回っている。
その内訳は、3時間以上(5.3%)、2～3時間(14.0%)、1～2時間(49.0%)、30分～1時間(24.5%)、30分未満(5.0%)、全くしない(2.0%)である。
- ☐ 休日に、1日当たり1時間以上勉強をしている児童の割合は、全国を大きく上回っている。
- ☐ 家で、自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合は、全国を上回っている。
- ☐ 家で、学校の授業の予習をしている児童の割合は、全国を大きく上回っている。
- ☐ 家で、学校の授業の復習をしている児童の割合は、全国を極めて大きく上回っている。
- ☐ 家で、教科書を使いながら自学自習をしている児童の割合は、全国を大きく上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった(概ね95%程度)質問】 (単位: %)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
22家で、学校の宿題をしているか 【「している」「どちらかといえば、している」の合計】	97.6	+0.6	+0.3

- ☐ 家で、学校の宿題をしている児童の割合が、極めて高い。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】 (単位: %)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
16学習塾(家庭教師を含む)で勉強をしているか 【「勉強している」の合計】	28.5	-17.4	-0.9

- ▼ 学習塾(家庭教師を含む)で勉強している児童の割合は、全国を大きく下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった(概ね50%未満)質問】 (単位: %)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
17学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、 1日当たりどれくらいの時間、読書をしているか 【「30分以上」の合計】	37.6	+1.1	+1.2
18昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読ん だり、借りたりするために、学校図書館・学校図 書室や地域の図書館にどれくらい行くか 【「週に1回以上行く」の合計】	16.7	+0.3	-0.8

- ▼ 普段、30分以上読書をしている児童の割合は、4割以下である。
- ▼ 学校図書館・学校図書室や地域の図書館に週に1回以上行く児童の割合は、極めて低い。

②今後の対策・指導

- ◆ 今後も家庭での学習が計画的・継続的に行われるよう支援する。
- ◆ 各教科等の指導として、学習したことが読書活動に発展するような授業展開を工夫する。また、その内容を学級通信等を活用して家庭に情報発信し、家庭でも読書習慣を身に付けさせるよう、家庭との連携を図る。

(3) 基本的生活習慣等

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より 5 ポイント以上高かった質問】 (単位：％)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
10 普段（月～金曜日）、何時ごろに寝るか 【「午後10時までに寝る」の合計】	58.1	+8.5	(新規)

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

□ 普段、午後10時までに寝る児童の割合は、全国を上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95％程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より 5 ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50％未満）質問】 (単位：％)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
11 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりするか 【「1時間より少ない」の合計】	15.9	±0.0	±0.0
12 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをするか 【「1時間より少ない」の合計】	46.4	+1.3	-1.0

▼ 普段、1時間以上テレビやビデオ、DVDを見たり、聞いたりする児童は、前年度と同程度で8割以上いる。

▼ 普段、1時間以上テレビゲームをする児童は、前年度と同程度で5割以上いる。

②今後の対策・指導

◆ 道徳や特別活動など、さまざまな機会を通じて、基本的な生活習慣や節度ある生活を身に付けさせるよう、指導の工夫を図る。

◆ 保護者集会や各種通信等を通じて、基本的な生活習慣や節度ある生活を身に付けさせるよう、家庭との連携を図る。

(4) 地域・社会との関わり

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より 5 ポイント以上高かった質問】 (単位：％)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
35 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があるか 【「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	72.6	+2.0	+5.3

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

□ 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある児童の割合は、前年度を上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95％程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より 5 ポイント以上低かった質問】 (単位：％)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
34 今住んでいる地域の行事に参加しているか 【「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	62.0	-5.9	+0.8

▼ 地域の行事に参加している児童の割合は、全国を下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】（単位：％）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
37 新聞を読んでいるか 【「ほぼ毎日読んでいる」「週に1～3回程度読んでいる」の合計】	26.4	+2.4	±0.0

▼ 新聞を週に1回以上読んでいる児童は、約3割にとどまっており、全国をやや上回っているものの昨年度と同程度である。

②今後の対策・指導

◆ 地域の人たちや関係機関の協力を得ながら、引き続き、次のようなことを心がける。

地域や社会に対する興味・関心を高めるために

- 社会科を中心とした教科等の学習において、地域や社会とのつながりをもたせた学習指導を行うことで、児童に学習した内容が実生活で生かせる実感をもたせる。
- 総合的な学習の時間の学習素材として、地域の行事や祭りなどの地域に関する内容を取り扱い、自分が住んでいる地域に対する興味・関心をもたせるようにする。具体的には、地域の人たちに関わる場を設定したり、地域の自慢できることを検討したりする学習活動を取り入れ、地域のよさを児童自ら再確認することによって、地域の一員としての自覚や参画する意識を育てるようにする。また、地域の人たちとの触れ合いは、児童の視野を広げ、自己の将来を具体的に描くことや学習に対する意欲付けにつながる効果も期待できることから、地域の人材バンクの作成に努める。
- 地域行事等の情報を教師自ら積極的に収集・提供し、参加を促したり、朝や帰りの会等で新聞記事を紹介し、その出来事について発表し合う場を継続的に設けたりしていく必要がある。

（５）児童の意識

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】（単位：％）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
29 学級会などの時間に友達同士で話し合って学級のきまりなどを決めていると思うか 【「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	87.3	+5.5	-0.2
30 学級会などの話合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめているか 【「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	63.9	+5.3	（新規）

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 学級会などの時間に友達同士で話し合って学級のきまりなどを決めている児童の割合は、全国を上回っている。
- 学級会などの話合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめている児童の割合は、全国を上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95％程度）質問】（単位：％）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
27 学校で、友達に会うのは楽しいと思うか 【「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	96.0	-0.2	（新規）
40 友達との約束を守っているか 【「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	97.5	+0.3	（新規）
42 いじめは、どんな理由があってもいけないこと だと思うか 【「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	97.4	+0.8	+0.1

- 学校で、友達に会うのが楽しいと思っている児童の割合が、極めて高い。
□ 友達との約束を守っている児童の割合が、極めて高い。
□ いじめはいけないことだと認識している児童の割合が、極めて高い。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50％未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 学級内で一人一人に役割を与えたり、活躍できるような活動を取り入れたりするなど自己肯定感や自己有用感をもたせる指導を継続していく。
- ◆ 学習規律やきまり、約束を守ることの大切さを今後も継続して指導していく。
- ◆ あらゆる機会を通じて、「いじめは人間として絶対に許されない」という意識を徹底させるとともに、引き続き、児童同士の心の結び付きを深め、社会性を育む活動を推進し、いじめの未然防止を図る。

2 学校質問紙調査の結果と今後の対策

（1）学習態度

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95％程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50％未満）質問：なし】

（参考：学校質問紙14より）

- ・児童が熱意をもって勉強していると思っている学校は、全国93.4％に対して青森県90.0％と全国をやや下回っている。

（参考：学校質問紙15より）

- ・児童が授業中の私語が少なく落ち着いていると思っている学校は、全国90.5％に対して青森県87.3％と9割を切っている。

②今後の対策・指導

- ◆ 授業を行うに当たっては、引き続き、次のようなことを心がけるようにする。

学習意欲を高めるために

- 主体的に学習に取り組むことのよさを感じさせ、望ましい学習に向かう姿勢を褒めるようにする。

- 児童が主体的に活動する時間を確保する。
- 授業の導入段階で、児童の興味・関心を基に学習課題を設定するなど、児童の学習への意欲を喚起する。
- 児童が学習を行う上で、見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動を重視する。

◆ 「私語をしない」「話している人の方を向いて聞く」などの学習規律に関する指導を継続する。

(2) 指導方法・学習規律

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
48 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしたか 【よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	83.5	+8.9	-3.3

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている学校は、前年度を下回っているものの、全国を上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
36 授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れたか 【よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	99.3	+0.5	+0.3
41 授業で扱うノートに、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書くよう指導したか 【よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	98.7	+2.3	+1.0
51 学習規律の維持を徹底したか 【よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	96.6	±0.0	-1.1
53 学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け、児童に伝えるなど積極的に評価したか 【よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	99.0	+0.6	+3.0

- ほとんどの学校で、授業の中で目標を示す活動を計画的に取り入れている。
- ほとんどの学校で、授業で扱うノートに、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書くように指導している。
- ほとんどの学校で、学習規律の維持を徹底している。
- ほとんどの学校で、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け、児童に伝えるなど積極的に評価している。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

(参考：学校質問紙**37**より)

- ・授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたか (93.8%)

(参考：児童質問紙**54**より)

- ・授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思うか (79.8%)

▼ 授業の最後の振り返り活動については、学校側が「よく行っている」と回答しているのに対し、児童の回答は8割を下回っており、意識の差が大きい。

②今後の対策・指導

◆ 授業を行うに当たっては、引き続き、次のようなことを心がけるようにする。

主体的な学習態度を育てるために

- グループ学習やペア学習等を取り入れ、一人一人の児童が考えたり、話し合ったりする場を設ける。
- 授業の中で児童の発言や活動の時間を確保するとともに、具体的な観点を明示して話し合わせたり、発表させたりする。
- まとめと振り返りの場では、児童の言葉で学習のまとめをするとともに、学習を通して自分ができるようになったことや分かったことなどを話させ、児童自身に学びを自覚させるようにする。

(3) 学力向上に向けた取組等

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
25 放課後を利用した補足的な学習サポートを実施したか 【「週に1回以上行った」以上の合計】	47.6	+15.6	-3.1
27 長期休業日を利用した補足的な学習サポートを実施したか 【「行った」の合計】	75.7	+11.5	+1.3
33 児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立しているか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	95.5	+7.0	(新規)
43 総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしたか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	86.7	+3.0	+5.4
44 授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	76.0	-4.1	+7.3

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- ☐ 放課後や長期休業日を利用して、補足的な学習サポートを実施した学校の割合は、全国を大きく上回っている。
- ☐ 児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図っている学校の割合は、全国を上回っている。
- ☐ 授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れている学校の割合は、全国をやや下回っているものの、前年度を上回っている。
- ☐ 総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導を行っている学校の割合は、全国をやや上回るとともに、前年度を上回っている。
(参考：児童質問紙46より)

・「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたこ

とを発表するなどの学習活動に取り組んでいるか (69.6%)

- ▼ 総合的な学習の時間については、学校側が探究の過程を意識した指導をよく行っていると回答しているのに対し、児童の回答は7割を下回っており、意識の差が大きい。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
40 発言や活動の時間を確保して授業を進めたか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	96.3	-1.4	-1.7
42 学級やグループで話し合う活動を授業などで行ったか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	97.6	+1.1	-0.1
114 学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有しているか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	99.7	+1.1	+0.7
115 学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいるか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	97.6	-0.3	-1.1

- ☐ ほとんどの学校で、発言や活動の時間を確保して授業を進めている。
- ☐ ほとんどの学校で、学級やグループで話し合う活動を授業などで行っている。
- ☐ ほとんどの学校で、学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している。
- ☐ ほとんどの学校で、学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいる。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
19 学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりできていると思うか 【「そのとおりだと思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	64.1	-5.1	-0.8
21 授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思うか 【「そのとおりだと思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	55.1	-6.1	(新規)
24 図書館資料を活用した授業を計画的に行ったか 【「学期に数回以上」の合計】	73.7	-9.3	-1.4
26 土曜日を利用した補充的な学習サポートを実施したか 【「行った」の合計】	1.0	-8.3	-1.0

- ▼ 学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりできている学校の割合は、全国を下回っている。
- ▼ 授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思う学校の割合は、全国を下回っている。
- ▼ 図書館資料を活用した授業を計画的に行った学校の割合は、全国を下回っている。
- ▼ 土曜日を利用して補充指導を実施した学校の割合は、全国を下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 総合的な学習の時間の指導においては、児童の驚きや疑問等を大事にするとともに、児童の思いを実現していく学習過程を設定し、主体的に課題を解決していくような学習展開を行う。
- ◆ 児童が主体的に課題を解決する手段の1つとして、学校図書館を計画的に活用する習慣を身に付けさせるようにする。

(4) 各教科の指導方法

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
68国語の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行ったか【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	47.9	-1.9	+6.5

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 国語の指導として、発展的な学習の指導を行った学校の割合は、前年度を上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
72国語の指導として、前年度までに、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行ったか【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	99.7	+1.7	+0.7
76算数の指導として、前年度までに、計算問題などの反復練習をする授業を行ったか【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	96.9	-0.8	-1.5

- ほとんどの学校で、国語の授業で漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業や、算数の授業で計算問題などの反復練習をする授業を行っている。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
57国語の授業において、コンピュータ等の情報通信技術を活用した授業を行ったか【「月1回以上」の合計】	31.1	-11.6	+2.1
58算数の授業において、コンピュータ等の情報通信技術を活用した授業を行ったか【「月1回以上」の合計】	41.1	-9.9	+1.6
74算数の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行ったか【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	56.8	-8.2	-0.4

- ▼ 国語や算数の授業で、月1回以上ICTを活用した授業を行った学校の割合は、前年度県平均をやや上回っているものの、全国を大きく下回っている。

- ▼ 算数の授業で発展的な学習の指導を行った学校の割合は、全国を下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 算数の授業において、児童の実態を考慮しながら発展的な内容の指導を行っていく。
- ◆ 児童の実態に応じて、授業でICTを適切な場面で活用するようにしたい。

(5) 個に応じた指導

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
64 算数の授業において、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしたか 【「行った」の合計】	50.6	-10.1	+2.3
65 算数の授業において、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱ったか 【「行った」の合計】	41.7	-12.2	+0.2
78 学校の教員は、特別支援教育について理解し、調査対象学年の児童に対する授業の中で、児童の特性に応じた指導上の工夫を行ったか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	82.9	-6.5	-1.7

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- ▼ 算数の授業において、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにした学校の割合は、全国を大きく下回っている。
- ▼ 算数の授業において、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱った学校の割合は、全国を大きく下回っている。
- ▼ 特別支援教育について理解し、授業の中で、児童の特性に応じた工夫を行っている学校の割合は、全国を下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 算数を含め各教科の授業においては、児童の習熟の程度に応じ、少人数指導による確実な習得や発展的な内容の扱い等、個に応じた指導を適切に実施する。
- ◆ 特別な支援を要する児童の指導に当たっては、児童の特性を理解し、特性に応じた指導を適切に実施する。

(6) 家庭学習

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
97 家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図ったか（国語／算数共通） 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	94.2	+5.4	+2.7

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 家庭学習の与え方について、校内の教職員で共通理解を図った学校の割合は、全国を上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95％程度）質問】 (単位：％)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
92国語の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えたか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	99.3	-0.1	-0.7
93国語の指導として、児童に与えた家庭学習の課題について、評価・指導したか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	98.0	-0.1	-1.6
94算数の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えたか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	99.6	±0.0	-0.4
95算数の指導として、児童に与えた家庭学習の課題について、評価・指導したか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	97.6	-0.7	-2.1
96保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけを行ったか（国語／算数共通） 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	98.0	+0.7	-0.7

- ☐ ほとんどの学校で、国語・算数の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えるとともに、評価・指導も行っている。
- ☐ ほとんどの学校で、保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけを行っている。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】 (単位：％)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
98家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えたか（国語／算数共通） 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	75.7	-6.4	-3.3

- ▼ 家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えた学校の割合は、全国を下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50％未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 家庭学習は、学習したことを児童に定着させるためには欠かせないものであるため、引き続き、次のようなことを心がけるようにする。

家庭学習を充実させるために

- 家庭学習の課題の与え方について、学校や児童の実態を考慮し、引き続き、学年ごとの基本的な学習時間、教科ごとの学習方法等について教職員間で共通理解を図る。
- 学習内容の定着を図るためのドリルやプリント学習だけではなく、児童の自主的な学習を大事にした課題や、調べたり文章を書いたりする課題を定期的に出すなど、学習の内容や方法を具体的に指導する。
- 家庭学習の習慣化を図るために、学校側から保護者に対して家庭学習に対する考え方を示したり、話し合う場を設けたりして、家庭と協力して取り組む。

(7) 教員研修及び教職員の取組

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より 5 ポイント以上高かった質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
106 個々の教員が、自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており、校外の教員同士の授業研究の場に定期的・継続的に参加しているか 【よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	89.7	+6.7	(新規)

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- ☐ 個々の教員が自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決め、校外の教員同士の授業研究の場に定期的・継続的に参加していると回答した学校の割合は、全国を上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね 95 % 程度）質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
59 平成 27 年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有したか 【よく行った」「行った」の合計】	97.9	-0.8	+0.5
60 平成 27 年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用したか 【よく行った」「行った」の合計】	95.2	-1.8	+0.4
63 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っているか 【よく行っている」「どちらかといえば、行っている」の合計】	95.9	+2.7	+3.4
101 校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っているか 【よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	100.0	+0.8	(新規)
105 教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしているか 【よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	99.3	+3.1	+0.2
110 教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させているか 【よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	98.7	+2.8	+0.6
111 学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力し合っているか 【よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	95.6	+0.3	+1.6

- ☐ ほとんどの学校で、平成 27 年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有し、教育活動を改善するために活用している。
- ☐ ほとんどの学校で、全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等へ反映させている。
- ☐ ほとんどの学校で、校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っている。
- ☐ ほとんどの学校で、教職員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにし、その成果を教育活動に積極的に反映させている。

- ほとんどの学校で、学習指導と学習評価の計画の作成に当たって、教職員同士が協力し合っている。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

(単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
61 平成27年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行ったか 【「よく行った」「行った」の合計】	81.9	-9.0	+1.7
62 平成27年度全国学力・学習状況調査や学校評価の自校の結果等を踏まえた学力向上のための取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行ったか 【「よく行った」「行った」の合計】	84.6	-5.6	+1.7
103 都道府県や市町村の指導主事や大学教員等の専門家が、校内研修の指導のために定期的に来校しているか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	63.7	-9.1	(新規)
104 模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っているか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	86.6	-6.2	-8.5
108 コンピュータ等の情報通信技術を活用して、子供同士が教え合い学び合うなどの学習（協働学習）や課題発見・解決型の学習指導を学ぶ校内研修を行っているか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	41.0	-9.0	(新規)
109 授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施したか 【年間9回以上】の合計】	34.6	-18.0	+1.0

- ▼ 平成27年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行った学校の割合は、全国を下回っている。
- ▼ 平成27年度全国学力・学習状況調査や学校評価の自校の結果等を踏まえた学力向上のための取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行った学校の割合は、全国を下回っている。
- ▼ 都道府県や市町村の指導主事や大学教員等の専門家が、校内研修の指導のために定期的に来校していると回答した学校の割合は、全国を下回っている。
- ▼ 模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っている学校の割合は、全国及び前年度を下回っている。
- ▼ ICTを活用して、子供同士が教え合い学び合うなどの学習や課題発見・解決型の学習指導を学ぶ校内研修を行っている学校の割合は、全国を下回っている。
- ▼ 授業研究を伴う校内研修を年間9回以上実施した学校の割合は、全国を大きく下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 校内研修の推進に当たっては、引き続き、次のようなことを心がける。

組織的な取組を推進するために

○全国学力・学習状況調査結果を自校において分析し、その結果について学校全体で共有し、調査実施学年以外の学年や調査実施教科以外の教科等の指導改善等に活用する。また、明らかとなった成果と課題について、参観日の全体会や学校通信等を通じて保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行うとともに、学力向上のための取組について理解と協力を求める。

○校内研修では、授業研究を伴う研修を中心にしながら、教職員の指導力の向上、指導内容や指導方法等の改善を図るため、模擬授業・事例研究・ＩＣＴの活用など実践に生かせる内容も適宜取り入れ、校内研修の充実に努める。

(8) 学校種間の連携及び地域の人材・施設の活用

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より 5 ポイント以上高かった質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
84 地域の人材を外部講師として招聘した授業を行ったか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	78.5	-3.9	+8.8
86 博物館や科学館、図書館を利用した授業を行ったか 【「よく行った」「どちらかといえば行った」の合計】	34.6	-11.6	+7.3
87 自然の中での集団宿泊活動を行ったか 【「行った」の合計】	98.6	+5.0	+0.2

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- ☐ 地域の人材を外部講師として招聘した授業を行った学校の割合は、全国をやや下回っているものの、前年度を上回っている。
- ☐ 博物館や科学館、図書館を利用した授業を行った学校の割合は、全国を大きく下回っているものの、前年度を上回っており、改善傾向が見られる。
- ☐ 自然の中での集団宿泊活動を行った学校の割合は、全国を上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね 95 % 程度）質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
89 P T A や地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれるか 【「よく参加してくれる」「参加してくれる」の合計】	96.3	-1.4	+1.9
91 保護者や地域の人々の学校支援ボランティア活動は、学校の教育水準の向上に効果があったか 【「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	96.6	-0.2	+3.5

- ☐ ほとんどの学校で、P T A や地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加している。
- ☐ ほとんどの学校で、保護者や地域の人々の学校支援ボランティア活動は、学校の教育水準の向上に効果があったと回答している。

【全国平均又は前年度県平均より 5 ポイント以上低かった質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
79 近隣等の中学校と、教育目標を共有する取組を行ったか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	42.5	-12.0	(新規)
83 平成 27 年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有したか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	32.5	-17.0	(新規)
85 ボランティア等による授業サポート（補助）を行ったか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	29.2	-18.9	+0.2
88 職場見学や職場体験活動を行っているか 【「行っている」】	39.7	-5.4	+2.5

90 学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれるか 【「よく参加してくれる」「参加してくれる」の合計】	74.6	-12.3	+0.3
---	------	-------	------

▼ 近隣等の中学校と、教育目標を共有する取組を行ったり、全国学力・学習状況調査の分析結果についての成果や課題を共有したりした学校の割合は、全国を大きく下回っている。

▼ ボランティア等による授業サポートを行った学校の割合は、全国を大きく下回っている。

▼ 職場見学や職場体験活動を行っている学校の割合は、全国を下回っている。

▼ 学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加している学校の割合は、全国を大きく下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】 (単位：%)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
82 近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行ったか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	44.2	-2.9	(新規)

▼ 近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った学校の割合は、全国をやや下回り、5割に満たない。

②今後の対策・指導

- ◆ 地域、学校、児童の実態を踏まえ、必要に応じて、地域の人材を授業に招聘したり、ボランティア等による授業サポートを取り入れたりなど、地域人材の積極的な活用に努める。
- ◆ 地域の実態を踏まえ、必要に応じて、社会教育施設等の積極的な活用に努める。
- ◆ 今後も学校支援ボランティア活動を推進し、保護者や地域が連携して学校を支援する体制づくりに努める。
- ◆ 近隣の中学校との連携は、教育活動の実施にとどまらず、児童生徒の学力に関する課題や互いの学校の取組等を共有するなどして、質的な充実をより一層図ることが必要である。
- ◆ 小中連携に当たっては、引き続き、次のようなことを心がける。

質的な充実を図るために

- 小・中教職員全体での合同研修会では、授業参観や協議を通して、相互の児童生徒の実態や相互の教育内容、指導方法、指導形態等、現状で行われている教育活動の具体的な取組などを知るとともに、なぜ、それらが行われているのかということに対する理解を図る場にする。
- 小中連携を推進する会議等では、各学校が自校の教育目標のもとにすすめている教育活動の中での連携の可能性を探ったり、児童生徒の学力に関する課題を共有したりすることで、自校の教育課程の編成に反映させるようにする。
- 研修会や会議等で得た中学校での取組や生徒の現状に関する情報を全教職員で共有し、小学校卒業時までには児童にどのような力を付けさせるかという視点も含めて、教育課程の編成に当たるようにする。

